

2011年6月28日

TANAKA ホールディングス株式会社

燃料電池用触媒の出荷量が過去最高を記録 田中貴金属工業、2010年度の出荷量(指数)を発表

～「エネファーム」の普及拡大や、燃料電池自動車の研究開発加速が背景～

TANAKA ホールディングス株式会社（本社：千代田区丸の内、代表取締役社長：岡本英彌）は、燃料電池用触媒で世界トップシェアを誇る、田中貴金属グループの田中貴金属工業株式会社（本社：千代田区丸の内、代表取締役社長：岡本英彌）が、2010年度（2010年4月～2011年3月）の燃料電池用触媒の出荷量について過去最高を記録したことを発表します。

2004年度^(※1)を基準にした出荷量推移（指数）を見ると（次頁ご参照）、2010年度の総出荷量は、これまで最高の出荷量であった2006年度（169%）を大きく越え、過去最高の198%を記録しました。家庭用燃料電池「エネファーム」が普及し始めたことに加え、燃料電池自動車（以下、FCV）の研究開発が積極的に進められていることが、総出荷量を押し上げたと考えられます。

■家庭用燃料電池向けが過去最高の323%を記録

特に、2010年度の家庭用の出荷量は伸びが著しく、「エネファーム」の本格販売が始まった2009年度（234%）を大幅に超える、323%を記録。国やガス、石油会社による補助制度のほか昨今のエコブームなどにより、普及が順調に進んだことで、触媒出荷量も2009年度に比べて約1.4倍の伸びという大幅な上昇となりました。

さらに、2011年4月以降も節電意識の高まりで「エネファーム」に注目が集まっております。2011年度には、小型で安価な新型が発売されるなど引き続き市場の成長が期待され、今後も更なる触媒需要量の増加が見込まれています。

■自動車用はFCVの研究加速で、162%にまで増加

自動車用については、研究開発用の需要が一旦落ち着いていた2008年度（135%）と2009年度（133%）を経て、2010年度は162%にまで出荷量が増加しました。自動車会社やエネルギー関連会社は現在、FCVの普及開始時期となる2015年^(※2)に向けて、本格的な市場導入の準備段階として、FCV量産車の開発や水素供給インフラ網の整備に向けて共同での取り組みを開始しました。昨今のエネルギー問題や原油高といった経済動向も相まってFCVへの注目が高まる中、今後もFCV用の触媒需要量は増加傾向が続くと推測されます。

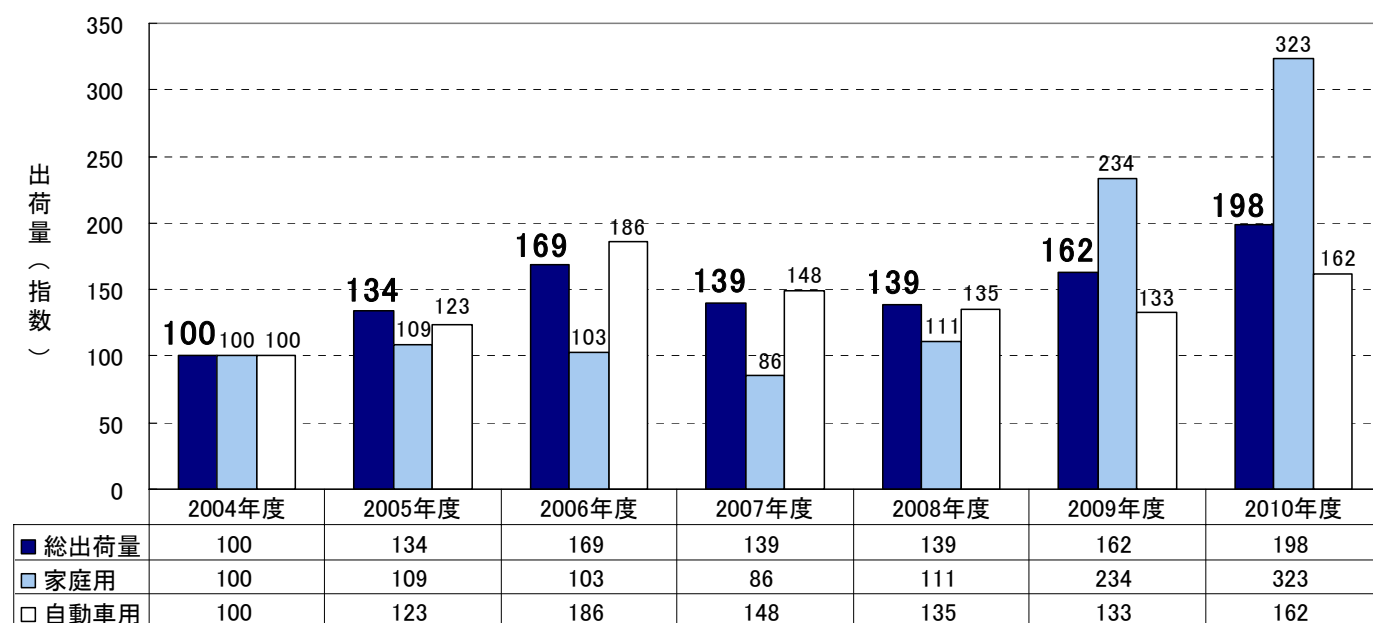
クリーンで地球環境にも優しく、エネルギー効率も良い燃料電池は、コストや耐久性、性能などへの課題もありますが、有望な次世代エネルギーの利用技術として実用化技術開発や、実証実験、インフラ整備、普及事業が国家レベルで支援されています。そのため燃料電池の燃料改質器に使われる貴金属触媒も更なる需要が見込まれます。

田中貴金属工業では、今後も燃料電池の市場要求をいち早く見極め、顧客のニーズに対応すべく生産体制を整備するとともに、コスト削減と資源の有効利用のため、希少な貴金属の使用量を減らす研究やリサイクルの強化を図り、今後の燃料電池の普及に向け、新技術や新商品の開発に取り組んでまいります。

燃料電池用触媒 用途別出荷量の推移

※2004年度(2004年4月～2005年3月)の年間出荷量を100とした指数

※総出荷量にはモバイル用なども含む



(※1) 2004年度は、家庭用燃料電池の実証試験が国家プロジェクトとして開始された年度(2008年度まで)

(※2) 燃料電池実用化推進協議会(FCCJ)の「FCVと水素ステーションの普及に向けたシナリオ2010」より

■TANAKA ホールディングス株式会社（田中貴金属グループを統括する持株会社）

本社：東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビルディング 22F

代表：代表取締役社長 岡本 英彌

創業：1885 年

設立：1918 年

資本金：5 億円

グループ連結従業員数：3,441 名（2009 年度）

グループ連結売上高：7,102 億円（2009 年度）

グループの主な事業内容：貴金属地金（白金、金、銀ほか）及び各種工業用貴金属製品の製造・販売、輸出入及び貴金属の回収・精製

HP アドレス：<http://www.tanaka.co.jp>

■田中貴金属工業株式会社

本社：東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビルディング 22F

代表：代表取締役社長 岡本 英彌

創業：1885 年

設立：1918 年

資本金：5 億円

従業員数：1,599 名（2009 年度）

売上高：3,888 億円（2009 年度）

事業内容：貴金属地金（白金、金、銀ほか）及び各種工業用貴金属製品の製造・販売、輸出入及び貴金属の回収・精製

HP アドレス：<http://pro.tanaka.co.jp>

<田中貴金属グループについて>

田中貴金属グループは 1885 年（明治 18 年）の創業以来、貴金属を中心とした事業領域で幅広い活動を展開してきました。2010 年 4 月 1 日に TANAKA ホールディングス株式会社を持株会社（グループの親会社）とする形でグループ再編が完了しました。ガバナンス体制を強化するとともにスピーディーな経営と機動的な業務執行を効率的に行うことにより、お客様へのより一層のサービス向上を目指します。そして、貴金属に携わる専門家集団として、グループ各社が連携・協力して多様な製品とサービスを提供しております。

国内ではトップクラスの貴金属取扱量を誇る田中貴金属グループでは、工業用貴金属材料の開発から安定供給、装飾品や貴金属を活用した貯蓄商品の提供を長年に渡り行ってきました。今後も貴金属のプロとしてグループ全体で、ゆとりある豊かな暮らしに貢献し続けます。田中貴金属グループの中核 8 社は以下の通りです。

- ・ TANAKA ホールディングス株式会社（純粋持株会社）
- ・ 田中貴金属工業株式会社
- ・ 田中貴金属インターナショナル株式会社
- ・ 田中貴金属販売株式会社
- ・ 日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社
- ・ 田中電子工業株式会社
- ・ 田中貴金属ビジネスサービス株式会社
- ・ 田中貴金属ジュエリー株式会社